

## (参考資料)

### ■撮影エピソード

---

#### ◇伝統芸能の殿堂で裏方の黒衣に扮する嵐メンバー

能楽堂の松の画の舞台では、黒装束に黒頭巾というお揃いの黒衣スタイルで、メンバー全員のシーンを撮影しました。舞台上で主に役者の介添や舞台装置を操作する役割を担い、裏舞台に必要な裏方の黒衣。嵐の皆さんは実際に黒衣の指導を行う先生から「そこにいるのに、存在しない」というおもてなしの精神に加えて、歩く時の姿勢、足の運び方位置など、独特の所作を一から学び、「じゃあ先生、行きましょう！」という相葉さんの掛け声で、さっそく練習が始まりました。松本さんが「角を曲がる時は弓なりの動きで大丈夫ですか?」、続いて櫻井さんが「しゃがんだ時の手の位置は?」などと質問しながら、微調整を重ねる5人。持ち前の集中力とセンスで、一連のアクションをあっという間に体得していました。

#### ◇慣れない動きに関節がポキポキ鳴りまくる!?

息の合ったチームワークを発揮し、「黒頭巾の布をめくった直後は、凜とした表情で」という指示もそれぞれ完璧にこなすなど、テンポの良いお芝居で現場を盛り上げていた嵐の皆さん。そんな中、今回のお芝居は普段あまり動かさない筋肉も関係してくるため、しゃがんだ瞬間、誰かの関節がポキポキ鳴ってしまい、二宮さんの「今の誰?」という声をきっかけに、メンバーの間で犯人探し(!?)が始まる場面も。「オレじゃないよ」「なんかあっちの方から聞こえた気が」などというやり取りを繰り返していると、周りから一斉に笑い声が起こり、現場の雰囲気もすっかり和みました。

#### ◇櫻井翔さん×老舗旅館の下足番

老舗旅館の下足番を担当した櫻井さんは、毎朝玄関をきれいに掃いて、打ち水で清めて、履物を揃えて送り出すのは、お客様の旅の無事を願う祈りでもあるという女将さんの話に、真剣な表情で耳を傾けていました。打ち水の場面では当初なかなかうまく出来ず、自分の方に水が掛かってしまい苦笑いを浮かべるシーンもあった櫻井さん。それでも、番頭さんに自ら取材してコツを教えてもらおうと、次からは見事な打ち水を披露していました。

#### <櫻井翔さんのコメント～訪日促進パンフレットより～>

「今回、老舗旅館の裏方さんを体験させていただいて感じたのは、なんと言ってもきめ細やかな気配りですね。女将さんというボス的な存在が隅々にまで気を配っているのがよくわかります。ふだんお見かけすることもない布団係さんに教えていただいたのはお客様の立場に立つということでした。女将さんから布団係さんまで同じ心構えが徹底している。裏方さんの目立たない活躍があってこそのおもてなしなんだということがよくわかりました」。

#### ◇相葉雅紀さん×土産屋の売り子

相葉さんは風情ある商店街の飴屋で、飴切りのエンターテインメントのおもてなしを体験。トントントントとリズムカルな音を立てて、真剣かつ楽しげに作業する姿は、まさに職人そのものといった感じ、周りのスタッフもすっかり見入っていました。その後、飴の売り子として店頭に出ると、「あら、相葉ちゃん!」と声を掛けてきたお客さんとも、すぐに打ち解けていた相葉さん。持ち前の人懐っこさと明るいキャラクターで、その場にいたすべての人たちの笑顔を引き出していました。

#### <相葉雅紀さんのコメント～訪日促進パンフレットより～>

「飴切りのパフォーマンスを体験させていただきましたが、見るのとやるのとでは大違いですね。実際にやってみたらむずかしいのなんの。ただお土産を売るだけじゃない。ここには、楽しませようとか、喜んで帰ってもらおうという精いっぱいのおもてなしの気持ちがあふれてるんです。これもおもてなしのかたちなんですね。今回の裏

方さん体験、お客様を惹きつけるというエンターテインメントの原点に触れたような気がして、すごく勉強になりました」。

### ◇松本潤さん×海の上の料亭板前

板前として、夕暮れの時の海の上の料亭に乗り込んだ松本さん。法被姿にねじり鉢巻がとてもよく似合っていて、大きな声を張り上げて、キビキビと働く姿はまさにハマリ役でした。また、お刺身の舟盛りやお酒を海外からのお客様に配膳し、お座敷遊びでは振袖さんと呼ばれる芸姑さんと一緒に、宴会を賑やかに盛り上げるなど、「料理でもてなすだけでなく、お客様が感動するような演出」というおもてなしの心を体現していました。

#### <松本潤さんのコメント～訪日促進パンフレットより～>

「今回料理人を体験しましたが、たとえば一皿の料理をお出しするときにも細心の注意を払うんです。お客様が召し上がるペースを考えると、お刺身などは鮮度が命ですから器まで冷やしておく。てんぷらなどは揚げたてをお出しする。タイミングや温度にまで気を配るのは、目立たないけれどとても大切なこと。料理の世界には、まだまだぼくたち日本人でさえ気づかないきめ細やかな心くばりがある。おもてなしの深さを感じますね」。

### ◇二宮和也さん×庭師

庭師に扮した二宮さんが剪定するシーンでは、すぐそばで作業を見守っていた職人の親方から「ウチの息子よりも上手い！」と絶賛されると、「じゃあ、転職しちゃおっかな(笑)」とノリノリの様子で返答。親方との粋な掛け合いには、現場から何度も笑い声が聞こえてきました。東京の下町生まれで江戸っ子気質を持つだけに、べらんめえ口調もすっかり様になっていた二宮さん。庭とおもてなしの心を学びつつ、撮影を心から楽しんでいる様子が伝わってきました。

#### <二宮和也さんのコメント～訪日促進パンフレットより～>

「あー、きれいだなあ、なんていつも眺めていた日本庭園ですが、今回、庭園庭師という裏方さんを体験させていただいてほんとに驚きました。ただパチン、パチンと枝を切りそろえるだけじゃない。草むしりからはじまり、草や木と会話をするように丁寧にお手入れをしている。夏でも冬でも、雨だって雪だって休まないそうです。こんな風に裏方さんがちゃんとやってくれているからこそ、日本の美しい庭園や自然が守られているんですね」。

### ◇大野智さん×銭湯絵師

嵐のメンバーの中でも屈指の芸術センスを持つ大野さんは、銭湯絵師に挑戦。師匠を務めるのは、日本に2人しかいない現役銭湯絵師の中島盛夫さんです。当日は中島さんが途中まで描き上げた絵を、1時間ほどかけて完成するまでの過程を撮影しました。師匠の筆さばきを手本に、「これは難しい…何か上手く描く方法ないかな」「この色だと明るすぎますか？」などと自分で考えたり、助言をもらったりしながら、湖に浮かぶ船や松の木、富士山の山頂付近にかかる雲を、繊細なタッチで仕上げていった大野さん。完成した瞬間、「できた！」と師匠に向かってニコッと微笑みかけ、嬉しそうな表情を浮かべていました。

#### <大野智さんのコメント～訪日促進パンフレットより～>

「お風呂は、身体がきれいに洗えて湯船につかって疲れをいやすものだから、ホントは絵なんかいらんんです。でも昔ながらの銭湯には、なぜか壁一面に富士山の絵がある。今回の体験でわかったのは、日常のなかで少しでも温泉気分、露天風呂気分を味わってほしいというおもてなしの気持ち。日本人は無類のお風呂好き、温泉好き。だからお風呂には特別な思いがあります。こんな庶民的なおもてなしをぜひ外国の方にも知ってほしいですね」。